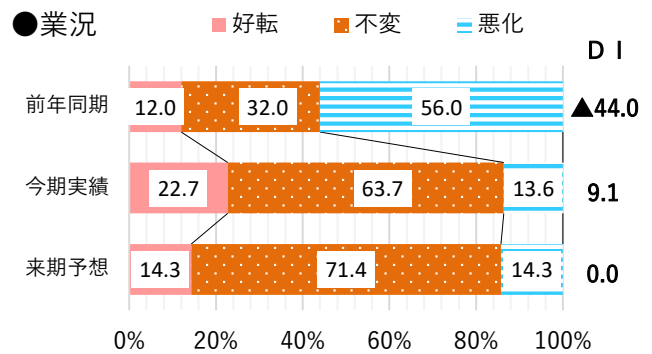


小 売 業

業況、売上、採算

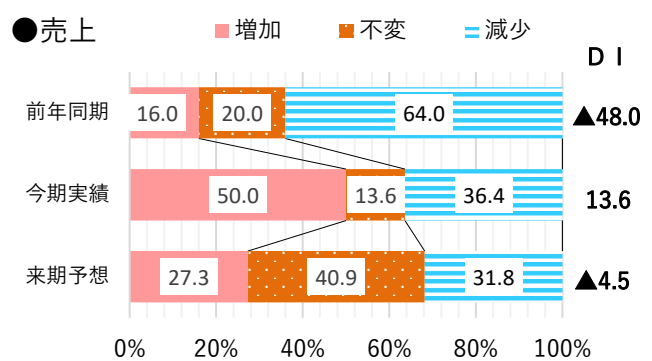
今期(2023.1~3)の業況判断DIは9.1で、前年同期(2022.1~3)と比べ53.1ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期(2023.4~6)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



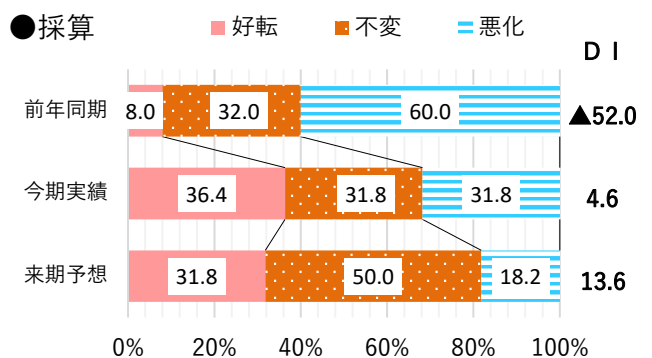
今期の売上高DIは13.6で、前年同期と比べ61.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上がマイナスに転じると予想しています。

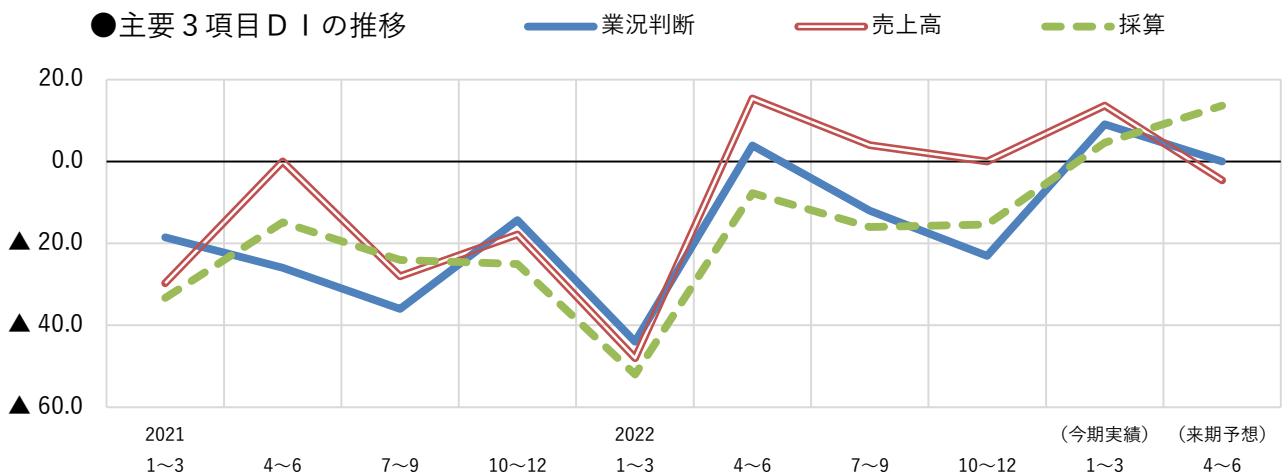


今期の採算DIは4.6で、前年同期と比べ56.6ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、採算の好転傾向が続くと予想しています。



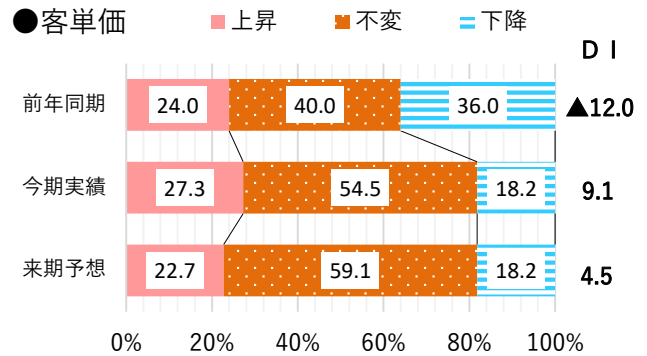
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

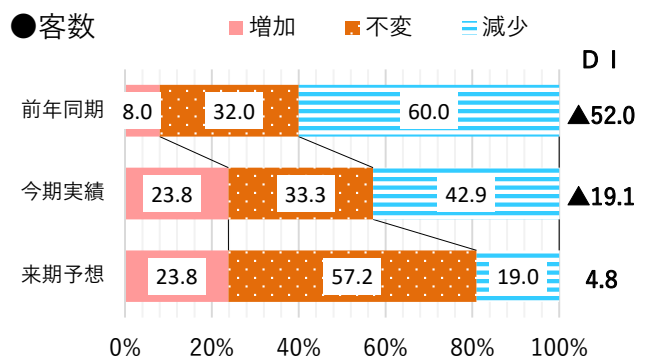
今期の客単価DIは9.1で、前年同期と比べ21.1ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価に大きな変化はないと予想しています。



今期の客数DIは▲19.1で、前年同期と比べ32.9ポイント上昇しました。

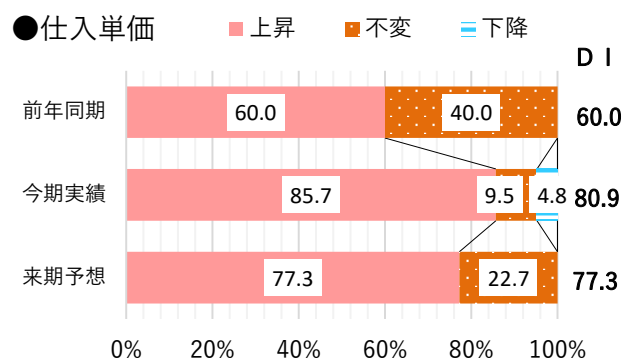
来期は、客数がプラスに転じると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

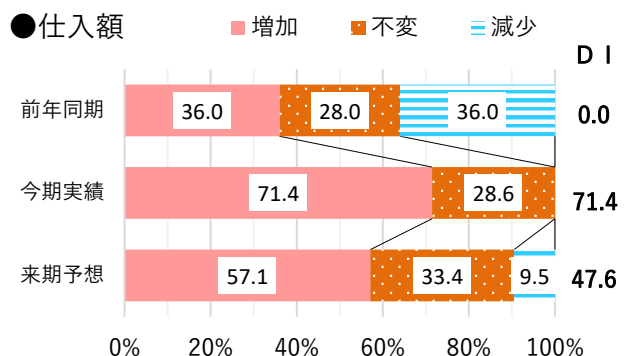
今期の仕入単価DIは80.9で、前年同期と比べ20.9ポイント上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



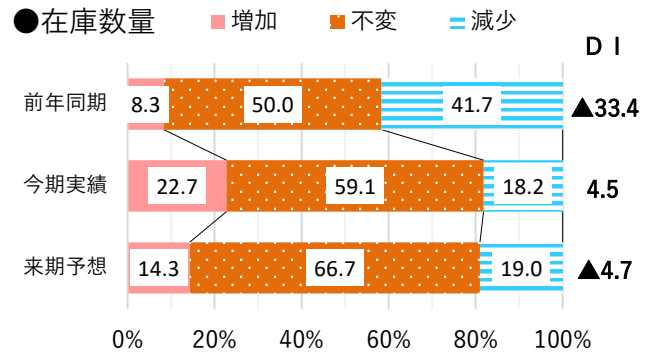
今期の仕入額DIは71.4で、前年同期と比べ71.4ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入額の増加傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは4.5で、前年同期と比べ37.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

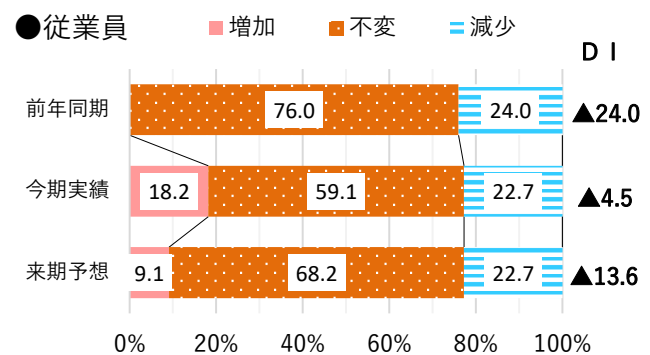
来期は、在庫数量がマイナスに転じると予想しています。



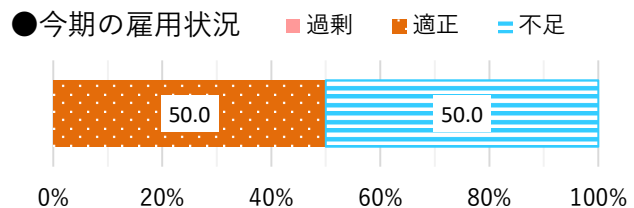
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲4.5で、前年同期と比べ19.5ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が続くと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は50.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、36.3%を占めています。

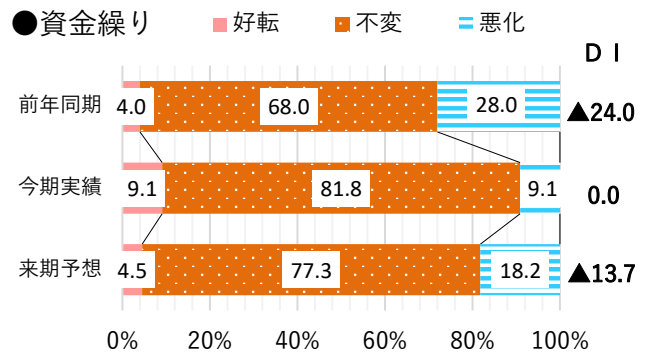
小売業全体では、半数の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	8
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	4

資金繰り、設備投資

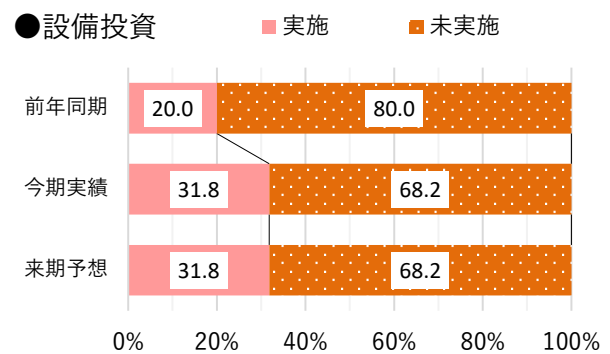
今期の資金繰りDIは0.0で、前年同期と比べ24.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



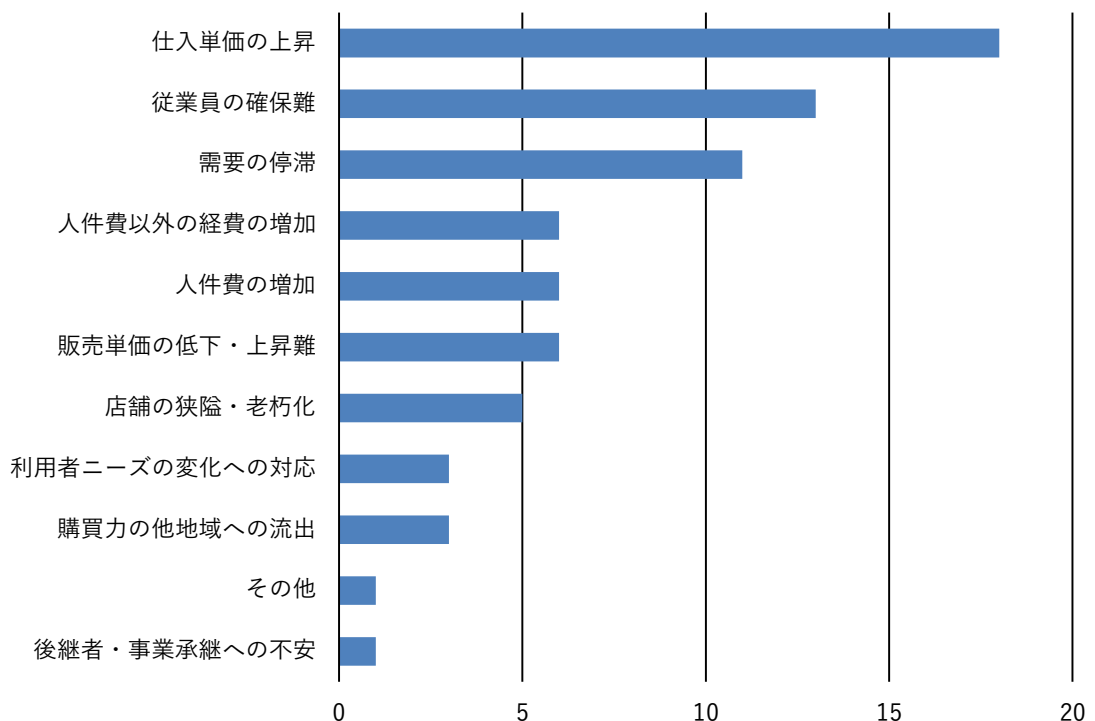
設備投資を実施した企業の割合は31.8%で、前年同期と比べ11.8%上昇しました。投資内容は1位が「OA機器」、2位が「販売設備」、「車両運搬具」、「付帯施設」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は15.4%で、横ばいを予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- コロナ禍の収束により外食、宿泊需要が増加し、業況が好転した。(食料品小売)
- アフターコロナで客数が増えたが、原材料費の上昇により利益が上がりづらい。(菓子製造小売)
- 1～2月は注文が少なかった。(菓子製造小売)
- エネルギー価格や資財等仕入価格が高騰し、最低賃金も引き上げられたが、販売価格の引き上げがなかなかできないため赤字が増えている。思うような人材を確保できず、苦労している。(食肉小売)
- 消費者の収入に余裕がないように感じられるので、販売価格を引き下げた。(衣服・身の回り品小売)
- 利用客数の増加に努めた。(衣類・身の回り品小売)
- 半導体不足により、年度の売上が今期に偏った。国内で様々な採用に取り組んだが、人材が定着しないため、外国人採用に着手したい。(自動車小売)
- メーカーの生産台数の増加に伴い、新車が予想以上の増産となり、売上が増加した。(自動車小売)
- 商品仕入単価が上昇した。(自動車小売)
- 高額商品が売れた。(自動車小売)
- 売上が増加した。(自動車小売)
- 物価の高騰により、買い控えや客単価の低下が目立った。(家電量販店)
- コロナ禍の落ち着きにより、客足が外食や観光に向けたことや、競合店の改装によって客数が減少した。1～2月は降雪による客数減少の影響も少なからずあった。仕入単価の高騰を受け、商品の内容量と価格のバランスをとることで、売上と販売数量を確保した。パート従業員の採用が急務だ。(大型店)
- 売上と客数が増加した。(大型店)
- 1～3月にかけて売上が増加した。(ホームセンター)
- コロナ禍が終息に向かい、飲食店に活気が戻ったことで売上が増加した。(コンビニ)
- 地域の人口減少によって売上と客数が減少した。(コンビニ)
- 仕入価格の上昇がいつまで続くか分からないが、上昇幅によっては利益が減少する。人件費の上昇も懸念材料だ。(ドラッグストア)
- 人件費の増加が見込まれるが、業況は維持できている。(燃料小売)

[来期の業況について]

- 需要は高止まりを見込む。(食料品小売)
- 年末年始の需要があった今期と比べ、売上の悪化が見込まれる。4～5月にかけて相当な品目の原材料費や包装資材の値上げが見込まれるため、価格転嫁を考えなければならない状況だ。(菓子製造小売)
- 注文が決まればスポット商品の買取りが毎月あるので、売上につながる。(菓子製造小売)
 - ※スポット商品：単発的に仕入れ、販促する商品のこと
- 今期同様、各種経費の高騰による採算の悪化が続くと思われる。(食肉小売)
- 市場の縮小傾向が明確になるだろう。(衣服・身の回り品小売)
- 半導体不足から4～9月は納車が中心となるため、売上が減少する。油脂類の原価高騰により、全ての工場作業料金の改定が必要となる。(自動車小売)
- メーカーの生産台数によるところが大きいですが、大きな落ち込みはないと予想する。(自動車小売)
- 観光や帰省を控える方針が緩和されたことで、客数の増加が見込まれる。電気料金の高騰を、高単価の省エネ家電を販売するチャンスとしたい。(家電量販店)
- 電気代が高値で推移し、経費の管理が難しくなる。売上の確保を重視する。(大型店)
- 売上と客数の増加を見込む。(大型店)
- コロナ禍が弱まり、業況の回復が期待される。(ホームセンター)
- 夏は猛暑が見込まれるようなので、売上の増加を期待している。(コンビニ)
- 客数の減少傾向は変わらないと思う。(コンビニ)
- 消費者のマインドが物価上昇に慣れてくれば大きな影響は避けられると思うが、経費(仕入価格、人件費、燃料等)の増加が懸念されるため、大幅な利益増加は期待しにくい。(ドラッグストア)